日本銀行旧小樽支店

日本銀行小樽支店の建物は日本を代表する建築家の一人によって、華麗な細部と当時の新工法で 1912 年に完成しました。この建物は 20 世紀初頭の小樽の金融力を反映するよう設計され、現在では博物館としてオープンしています。写真や縮尺模型を通じて日本の通貨制度と小樽の経済成長を伝えています。

エレガントなルネッサンス リバイバル様式の建物は有名な建築家辰野金吾（1854 年-1919 年）と彼の弟子である長野宇平次（1867 年-1937 年）によって設計されました。辰野は当時日本で最も有名な建築家の一人であり、東京日本橋の日本銀行本店（1896 年）や赤レンガの東京駅丸の内駅舎（1914 年）の設計でよく知られています。

様式化された円のモチーフである日本銀行のシンボルが石膏の方で内装全体に使用されています。このモチーフは今日まで日本の紙幣に印刷されています。建物のレンガ造りの外観は石に似せたセメントでおおわれており、雨や雪からレンガを保護しています。北側の屋根に沿った 4 つのドームと南西の角の小樽港を見渡せる 4 階建ての望楼を備えています。博物館への入場は無料です。